

【流碑祭】

長岡京吟詠会3名の

功労物故会員の銘板を奉納

本庄賀秀峰



賀堂流碑は、昭和38年に当流の由来を記してその発展を期すると共に、流祖磯部賀堂師の功績を追悼・顕彰するために建立された記念碑です。姫路城を間近に見ることのできる「姫路護国神社」の境内にあります。この碑には、流祖磯部賀堂師をはじめ、吟道賀堂流発展に貢献された多くの先人の銘板が奉納されています。毎年3月21日（春分の日）に功労者の銘板を奉納し、流祖とともに感謝する「流碑祭」が行われます。今年は、京都本部からは長岡京吟詠会で多くの功績を残された**円藤賀真寿先生、山本賀秀雲先生、小椋賀秀燦先生**の3人の銘板を奉納させていただきました。本来であればご遺族の方にご参列いただき、銘板を奉納していただくのが恒例ですが、「新型コロナウイルス感染」が収まらない時でもありますので、代表で私が参列し、参拝いたしました。この碑の前には初代宗家の吟詠などが聞ける「サウンドリピーター」が設置されています。ぜひ、お立ち寄りください。



50周年記念特集 その3

【長岡京吟詠会はこうして始まった！】

長岡京吟詠会の創始者千阪賀秀先生は、ある日長岡町役場（現 長岡京市）の友人から「先生が長年教鞭を執られていた漢詩を市民に教えてくれないか」と声をかけられました。さっそく先生は長岡町立公民館文化講座として「漢詩講座」をスタートされました。昭和44年1月のことでした。この講座は昭和44年から47年まで継続され、昭和44年20名、昭和45年18名、昭和46年16名、昭和47年18名という多数の方が受講され、卒業されました。この受講生の中には、現在も漢詩を勉強し続けておられる方も少なくありません。また、この受講生の中には自ら漢詩の教室を持ち、教えている方もおられます。この「漢詩講座」が「賀堂流長岡京吟詠会」の前身です。
（長岡京吟詠会30年史より）

お琴の魅力を語る その1

小林賀秀亨



私は子供の頃から、お琴の音色が大好きで、親戚にお琴の先生をしている人がいましたので、家に来て教えていただいております。

結婚して京都に来てからは、「京都当道会」の先生に習うようになり、そのうち、私もお琴を教えるようになりました。詩吟の大会にも出させて頂き、佐々木一景先生よりお琴の「リズム感、間の採り方」は、吟と非常によく調和が取れ、何か相通じるものがあると言ってお下さいました。これからしばらく「お琴」の魅力をシリーズでお送りしますので、お楽しみに。

詩吟の基礎技術 その2

【言葉運びについて】

横山賀秀邦

発声練習が終わったら漢詩を詠う方に進みますが、七言絶句の場合、まず詩の意味を頭に入れて、起句・承句・転句・結句とそれぞれの絵がマンガチックでいいですから描けるといいですね。伴奏曲の前奏が終わり、いざ詩文というときも、口と声が同時ではなく、一文字目の口の形を作っておくと味わい深い情のある吟になります。そして、譜節に入ったら、先の母音の支点を安定させて、引くことなく、しっかり節回しをして詠うことです。（和歌、俳句については引くこともあります）鼻濁音は当然鼻にかけますが、言葉の途中の【ん】は口を閉じずに言うこと。素読ではあんなにうまく読んでいたのに、いざ詠いだすと等間隔に並べて詩句を詠う人がいますが、喋るように詠うことが肝心なのです。それから【し】の発音もシッとする場合も多くなります。気持ちのいい発声で、聴いている方々に楽しんでいただきましょう。詩文の譜節以外には、母音を入れないできりっと引き締まった吟になるように精進して楽しみましょう。

（追記）

- ① 発声は、おへその下に口があると思ってお腹を使うこと。たまたま声は顔のほうの口を使って出しているけれど。
- ② 小さい【つ】の後の一文字は、ほんの少し遅らせると感じが出る。たとえば「行っ【て】」のように。

令和4年度 新入会員ご紹介

よろしく
お願いです



よしおか みほ
吉岡 美保さん

住 所：向日市

入 会：令和4年3月より

クラブ：長天詩吟クラブ

私は、音楽療法士の仕事をしています。無理なく通る声で歌えるよう、ボイストレーニングをしたいと思っていたところ、知人のFacebookで「詩吟を始めました」との投稿を目にして、即連絡をとりました。今はまだ、人前で「吟じる」自分を全く想像できませんが、いつか、何年後に、高齢者施設での音楽療法に、詩吟を活用できるようになることを目標に、頑張っていきたいと思います。

お詫びと訂正

ぎんまい4月号の新入会員ご紹介の記事で丸田薫さんのお名前を丸太薫さんと誤った記載をしておりました。訂正してお詫び申し上げます。

R4/5・6月の予定



長岡天満宮のキリシマツツジ

長岡京吟詠会

5/ 4(水) 13:00	企画・研修部会	公民館 講座室
5/ 4(水) 14:45	連絡会	公民館 講座室
5/11(水) 14:00	執行部会	公民館 学習1
5/18(水) 13:00	運営会	公民館 視聴覚室
5/18(水) 14:45	連絡会	公民館 視聴覚室
5/22(日) 14:45	公サ連まつり	公民館市民ホール
6/ 1(水) 14:45	連絡会	公民館 視聴覚室
6/ 8(水) 14:00	執行部会	産文2F 1会議室
6/15(水) 13:00	運営会	公民館講座室
6/15(水) 14:45	連絡会	公民館講座室
6/19(日) 13:00	定期発表会	こらさ1F ホール

☆定期発表会、皆さん奮ってご参加ください！！

京都本部・総本部

5/ 1(日) 賀堂流審査員研修会 姫路飾磨図書館

府連・府総連・財団

5/ 8(日) 府連京都大会(ジュニア・一部・シニア) ラポール京都
5/22(日) 剣詩舞コンクール京都大会 右京ふれあい文化会館
6/11(土) 府連審査員研修会 京都アスニー
6/26(日) 府連吟士権者決定京都大会(二部) ラポール京都

*京都府連の大会、さあ！いよいよ開催！！

コロナの為、昨年中止になった京都府連の大会が、今年は、5月8日に開催です。

ジュニア：1名、第一部：13名、シニア：13名が出場予定です。また多くの会員が役員として大会の運営に協力頂きます。皆で協力し大会を成功させ、賀堂流のコロナに負けない素晴らしい吟詠を披露しましょう！

(事務局)

*昇級・昇格おめでとうございます！！

次の方々が5月1日付けで昇級、昇格されました。さらに上を目指して稽古に励んでください。

- ・初級：和島一行
- ・初伝：市川富美子、木野田美智子
- ・中伝：大西梅野、宮小路康文
- ・奥伝：千田勉、土江美佐子

(敬称略、事務局)

*新規入会者のお知らせ！！

このたび、次の4名の方が入会されました。

頑張ってください！！

- ・吉岡美保 (3月1日付け、女性、向日市、長天)
- ・増井一博 (3月1日付け、男性、京都市、長天)
- ・小垂喜子 (4月1日付け、女性、京都市、秀邦)
- ・新庄佑三 (4月1日付け、男性、長岡京市、秀邦)

(敬称略、事務局)

*賀堂流内規の改正について

令和4年3月21日付けで、賀堂流規定や内規が改正されました。会員に直接関係の深い内規条項の改正部分についてお知らせします。

第4条 前第2条及び第3条における地方資格認定会の申請を得る為の実力審査を受けるには下記の条件を必要とする。

六段、師範	：五段、準師範後2年以上	(旧：3年)
修士	：六段後3年以上	(旧：5年)
上師範	：師範後3年以上	(旧：7年)
大師範	：上師範後3年以上	(旧：5年)
総師範	：大師範後5年以上	(旧：10年)

(赤字が改正された部分です)

(事務局)

シリーズ「クラブ紹介」その3

【下海印寺 詩吟クラブ】 立林 賀秀栄



私は昭和52年2月に下海印寺クラブで詩吟を始め、45年ほどになりました。当初、今は亡き千阪賀秀先生に公民館にお越しいただき、多くの方が入会され、熱心に賑やかに稽古をしておりました。しかし10年、20年、時とともに会員も減り、一時はひとりになってしまひ、辞めようかと思いましたが、家族や友人の支えがあり、今日まで続ける事が出来ました。大会で賞をいただいた事も励みの一つになりました。その後、私も指導者の資格を戴くことができ、ある日友人から教えてほしいと言われ、嬉しさと不安で胸がいっぱいになりました。95歳の生徒さんもおられ、元気をもらっています。平成25年からは、第五小学校の「すくすく教室」での生徒さんとのかわりも喜びです。詩吟の発声を心がけることは元気にも繋がっています。半世紀続いてきたことは、先生方のご努力や詩吟の魅力があるからだと思ひます。

これからも一人でも多くの方に詩吟を楽しんでいただけたらと思っております。

寄稿募集しています。

【編集室】では皆さまの寄稿を募集しています。会員同士で吟詠の事を紹介し相互に学び合ひましょう

連絡先 尻枝賀秀道 Tel: 075-954-9092

『ぎんまい長岡京』 編集室

チーフ 尻枝賀秀道
メンバー 市丸、櫻澤、西本、後藤、宮小路

※連絡先 尻枝賀秀道
Tel: 075-954-9092

